

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471300259
法人名	社会福祉法人 大磯恒道会
事業所名	グループホーム こゆるぎの家
訪問調査日	平成 19 年 9 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 12 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1471300259
法人名	社会福祉法人大磯恒道会
事業所名	グループホーム こゆるぎの家
所在地	神奈川県中郡大磯町国府本郷1194-1 (電話) 0463-72-6615

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成 19年 9月 28日	評価確定日	平成 19年11月12日

【情報提供票より】( 19年 7月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	11人, 非常勤 3.4人, 常勤換算 15.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	360 円	昼食	400 円
	夕食	370 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,130円			

### (4) 利用者の概要( 7月 20日現在)

利用者人数	18 名	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名	
要介護3	8 名	要介護4	0 名	
要介護5	0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 84.4 歳	最低 73 歳	最高 94 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	二宮診療所、東海大学大磯病院、鈴木歯科医院、秦野病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>大磯駅からバスで約10分の閑静な住宅地に位置し、近くに障害者センターがあり、地域の方との交流等に活用している。 野菜やお米などは地域の商店から購入している。お米屋さんは、配達の際に犬を連れてきてくれ、利用者の楽しみにもなっている。 生活の楽しみとして、行事を計画し、職員のチームワークにより実施している。 職員の資質向上に向けて、内部研修や外部研修に積極的に参加している。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は家族、職員に伝え、玄関に掲示している。改善課題は無かったが、外部評価結果をサービスを見直す機会と捉え、課題を日々話し合いの中で検討し、サービスの質の向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全員で取り組み、最終的には管理者がまとめている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、町の介護課長、看護師、家族、地主、運営委員長、ホーム施設長、管理者、ユニットリーダー2名で、会議ではホームの現状を報告すると共に、毎回テーマを決め意見交換をしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族等が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、来訪時などを利用して家族と1対1で話をしている。家族会も年2回開催している。家族からの意見要望は「家族意見ファイル」に記入し、それらを運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の老人会からの誘いで、一緒に花見をしたり、幼稚園の運動会に招待され参加している。お祭りには、おみこしの休憩所に場所を提供し利用者と共に楽しんでいる。側道の農業用水路の草取りや掃除をしている。ボランティアの受け入れも多く、また、隣の障害者センターで行われる保育相談日に参加し幼児と交流するなど地域との関わりが心がけている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念として「ゆっくり、いっしょに、楽しんで」を掲げ、職員は日々のサービス提供をそれぞれの利用者に合わせて柔軟に行ってる。また、日々の生活は地域との関わりをもったものとなっている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや会議で理念について話し合い確認し合うようになっている。上下、先輩後輩の区別なくチームワークをとり、流しソーメンなどの企画を利用者、職員、地域の人と皆で楽しみながら行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会からの誘いで、一緒に花見をしたり、幼稚園の運動会に招待され参加している。お祭りには、お神輿の休憩所にホームを提供し、利用者と共に楽しんでいる。側道の農業用水路の草取りや掃除をしている。ボランティアの受け入れも多く、また、隣の障害者センターで行われる保育相談日に参加し幼児と交流するなど地域との関わりを心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全員で取り組み、最終的には管理者がまとめた。前回の評価結果は家族、職員に伝え、玄関に掲示している。また、外部評価結果をサービスを見直す機会と捉え、課題を日々の話し合いの中で検討し、質の向上に努めている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、町の介護課長、看護師、家族、地主、運営委員長、ホーム施設長、管理者、ユニットリーダー2名で、ホームの現状を報告するとともに、テーマを決め意見交換をしている。意見・要望等を受け全職員で話し合い、質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護福祉課や消防、地域包括支援センターとは、日常的にさまざまな連携をはかるよう努めている。町主催の認知症の講演会で、法人のコミュニティーセンター長及び管理者が講師を務めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に、職員が声をかけて暮らしぶりを伝えている。また廊下には、たくさんの行事や暮らしぶりの写真を貼り、情報提供をしている。月1回「一ヶ月の様子」と預かり金の「個人預かり明細書」と領収書を送付している。また、年4回「こゆるぎ通信」を発行し行事等の写真入りで家族に報告している。心身の状況に変化があった時には、随時連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、来訪時などを利用して家族と1対1で話しをしている。家族会も年2回開催している。家族からの意見要望は「家族意見ファイル」に記入し、それらを運営に反映している。入居案内、運営規程、利用契約書、重要事項説明書等に苦情相談等に関して明記している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員による支援を心がけている。法人で職員異動を行う際には、異動する職員からの同行研修を行い、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。職員の異動は、たよりや家族会で家族に報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて研修を実施している。採用時研修は、法人で2日程のオリエンテーションを行い、その後グループホームで内部研修を1ヶ月行う仕組みになっている。外部研修の案内を受けた際には、職員に積極的に受講させている。研修受講者は、研修報告書を作成し、カンファレンス時に報告したり、また回覧して全職員に周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協議会と湘南ウエスト事業者連絡会に加入している。交流、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用にあたって、ホームに何回か遊びに来てもらったり、ホームから家庭に伺ったりして、入居前の生活環境を把握し、徐々に馴染んでもらうように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の生活の知恵や様々な知識を生かせるように心がけている。あんこの煮詰める加減をみてもらったり、餅つきが上手な方や味噌やこんにゃくづくり、畑仕事など職員が教わる場面が多くあり、職員は利用者日々感謝の言葉かけをしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ロマの関わりの中で、声かけや表情などにより利用者の思いを把握するように努めている。化粧品の買い物、隣にある障害者センターの喫茶コーナーにコーヒーを飲みに行くなど、一人ひとりの希望に合わせて対応している。以前の住まいの商店街を、車で通過した時の反応を捉え、その商店街の洋品店に買いに行ったところ、「この服もここで買ったの」と好評であった</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回カンファレンスを開催し、利用者の要望や家族の意見を聞き、日々の支援の中での気づきや生の声を「生き生きメモ」に記録し、介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は2～6ヶ月で見直しを行っている。状態に変化が生じた場合は、その都度見直しを行っている。いずれの場合も利用者、家族等の意見も充分に取り入れて介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や外出の送迎など必要な支援を柔軟に行っている。また、地域の独居の方に声をかけ、餅つきやバーベキューなどに誘っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通院している地域のかかりつけ医に、ホーム入居後も継続して診てもらっている。協力医療機関の往診は、内科は月2回、歯科は必要な時週1回、皮膚科の往診も受けられる体制を整え、利用者の健康管理に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に向けた対応について話しをしている。家族・利用者・医療機関と連携を取りながら支援する体制としている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱は、全職員が把握しており書類は事務所の戸棚に保管している。運営規定や利用契約書に、守秘義務や秘密保持等について明示している。 職員は、居室に入る際に、ロックをしてから入室している。年長者である利用者の一人ひとりの尊厳を大事にすることを心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や身支度、食事時間は利用者個々のペースを大切に支援している。レクリエーション等で気のむかない人は、散歩や買い物、喫茶店などに出かけるなど、一人ひとりに合わせて支援をしている。 利用者の家族がグループホームで待ち合わせをして、外出することもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みや希望を聞きながら決めるようにして、彩りや栄養に配慮している。食事の下ごしらえから盛り付け、配膳、下膳など食事の準備から片付けまでを利用者と職員が一緒に行っている。食器拭きなどをテーブルの上に用意し、座って作業ができる様に配慮している。訪問時の昼食は、利用者と職員が一緒に和やかに会話しながら食していた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望により毎日入浴できる体制になっている。帰宅願望の強い方が、入浴すると帰宅願望がなくなり、ゆったりと過ごしてもらえた。犬が好きな方がいるので、入浴を楽しめるように浴室に犬のポスターを貼るなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえるよう一人ひとりに支援している。絵画教室に通ったり、編物、料理、洗濯物たたみ、掃除、畑仕事、自分のプランターを育てたりしている。また、発泡スチロールのトレーを利用しパネル絵を作成したり、布を切り刻んで大きな貼り絵を作ったりとそれぞれ貼る人、切る人と役割があり季節感のある作品となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩、買い物、近くの畑まで収穫に行ったりとそれぞれの希望により支援している。また、初詣、花見、デパート、平塚の七夕見物など車で出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に庭に出てプランターの手入れ等ができるように、昼間は玄関の施錠をしていない。職員が常に気を付けており、帰宅願望の兆しが見えた時は、外出したら一緒に外に出ていけるような体制をとっている。 居室のドアには、鍵は付いていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を利用者と共に行っている。ガラスにはフィルムを貼り、家具は転倒防止の金具を設置している。非常食なども徐々に備蓄している。地区との防災連携に関して地区の組長から問い合わせがあり、グループホームの状況を伝えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を所有している管理者が、栄養面のチェックを行っている。水分摂取量・食事摂取量は日誌に記録している。水分摂取量の少ない利用者にはゼリーを食べてもらうなど配慮している。また、食べる量も利用者により異なることも考慮して盛り付けしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、ごうやの棚があり、中には季節の花が活けられている。リビングのソファやテーブル、椅子などは家庭的で安心感がある場所になっている。壁には、季節感を採り入れた利用者の手作りの作品や行事や普段の暮らしぶりの写真がたくさん貼られている。また、いつもの散歩コースの地図も写真入で作られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの馴染みのものが置かれ、居心地よく暮らせるように配慮されている。自宅で飼っていた猫を連れて入居した利用者は、居室で猫を飼っている。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	こゆるぎの家
(ユニット名)	さざんか
所在地 (県・市町村名)	中郡大磯町1194 - 1
記入者名 (管理者)	鈴木 良子
記入日	平成19年7月26日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域の高齢者の方に気軽に立ち寄ってもらいお茶を飲んでもらったり、一緒に楽しめる行事を増やしたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		日頃の交流の他に災害時の相互協力など関係を深めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>「こゆるぎの家」の存在が知られ、ご近所の中には独居の高齢の方が三味線演奏のボランティア活動に積極的である。又運営懇談会で話し合い、取り組んでいる</p>		<p>継続したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は自らを見つめなおす機会になっている。外部評価を実施する意義を理解し、これまでの評価を見直し、会議や日常的な話し合いで具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>常に自分の仕事を振り返り改善に努めたい</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営状況の報告や話し合いは細やかにいき、意見はより良いサービスに繋がるようにしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>障害福祉連絡会に参加、行事などの情報交換、町福祉課、消防、社協、包括と日常的に連携している</p>		<p>市町村等と連携継続し質の向上に取り組みたい</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会を持ち、必要な利用者に紹介し利用してもらっている</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全体会議で説明がなされており、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に説明をし、理解を得てから契約している	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつも話しやすい雰囲気作りに努め意見があった時は ケースカンファレンスや毎日の申し送りで検討している	利用者の中には意見表明が困難な方もいるので意見を徴集する側の努力を強化したい
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族の訪問時や月毎に書面で金銭・健康状態・行事報告をしている職員の移動等は年4回発行のおたよりや家族会で伝えている	体調は特に細かく報告を続けたい
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会や運営懇談会を定期的に行い機会をもうけている また随時意見等は受け付けている	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	年2回の全体会議・ケースカンファレンスの時に意見や提案を機会がある 又人事考課表に記入することもできる	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	外出時や行事など、また体調不良など通常より人数が必要な時間に職員確保が出来るよう努めている	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	移動は最小限に抑えている 離職については不安にならないように説明している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は1ヶ月研修を受け1人立ちしているが 細かいカリキュラムが出来ていない また段階に応じて部内研修・部外研修への参加や資格取得を促している		新人研修のカリキュラム作りをし伝え残しの無い方法を考えたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会をつくる		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減の研修を実施したり 職員の話を聴いたり親睦会をしたりして努力している		足を伸ばせる休憩室がほしい 管理者として職員の話を聴く機会を多く持ちたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	普段からそれぞれの職員の勤務状況は把握し 向上心を持ってよう声かけ努めている		職員の努力や実績を認め次につなげるようにする
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面接・訪問などの機会に傾聴する 何気ない会話や行動からも本人の求めに気づくよう努力している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前は面接や訪問をとうし、入居後は訪問時や電話で話し合い受け止める努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の話を良く聞き 理解し 支援を見極め必要なサービスを 提供する		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら 入居前は家庭に訪問したり ホームの見学に来てもらったりして徐々に慣れてもらうようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊敬の念をもって接している 利用者の得意分野で力を発揮してもらい学ばせてもらっている 利用者から職員にいたりや励ましの言葉がある		味噌・こんにやく作りや畑仕事などたくさんの事を教えてもらってきた これからも段々と失われつつある行事など学んでいきたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段から話し合える関係は出来ていて情報交換は蜜にしている		家族が友人と盆踊りの練習やフラダンスのボランティアに来てくれているのでこの関係を大切にしたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族・取り巻く人の関係を概ね把握している 家族と疎遠になっている場合は 電話や通信で近況報告をしたりして来訪のお願いをしている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にいた時から本を届けてもらうボランティアの訪問の継続や 馴染みのお店に買い物に行ったりしている 電話・手紙などの利用も支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から関係を把握している 一体となって出来るレクリエーションをしたり 必要に応じて間に入りよい関係が築けるよう支援している		話の繰り返しや行動などでトラブルが起きる事があるが 支え合う関係が続くよう支援したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とする人には相談に乗ったり その後の状況を伺ったりして支援している		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は大切にしているがうまく表出出来ない方もいる 何気ない会話に耳を傾け 無言の訴えにも表情・動きから汲み取り 検討している		これからも会話や表情に気を付ける
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居の方の入居前暮らしは不明な部分もあるが 概ね把握している これまでのサービスの利用経過については報告を受けている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの出来る事、有する力を把握しているが 変化もあるので その都度職員間で情報交換している		細かく観察する
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な関係者の意見を基にアセスメントを行ない、介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議や日常の申し送りですぐ見直しをして対応し、必要な関係者とは連絡、相談をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を毎日記録しており、個人生活状況記録や通院・往診ノートを活用し、随時見直しをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	音楽・折り紙・本の貸し出し・外出等様々なボランティアに加え 隣接する障害者施設内の絵画教室へ参加している		一人ひとりのニーズに対応するよう支援する
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣が相談センターになっており ケアマネージャと情報交換する事ができる 福祉用具の利用など支援している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護において協働している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望でかかりつけ医を選択、決定しているので適切な医療が受けられる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談や適切な助言をしてくれる医師がいる		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は勤務していないが法人内には相談できる看護職はいる		利用者の体調の変化や急変時に相談できる看護職がほしい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は普段の様子を報告し情報交換に努めている 家族・医師も交え 出来るだけ早く退院するよう話合っている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	どこまでならホームで十分な支援が出来るか 家族・医師と話し合いを持っている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状況に応じて主治医の指示や本人家族の意向をふまえ、職員間の話し合いケースカンファレンスをとって「重度化」・変化への対応をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の不安を少なくし早く、新しい環境に慣れるよう、情報交換や話し合いをもとにサービス内容を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけや対応は誇りを傷つけないようまた不利益を被らないように配慮している。個人情報の取り扱いについては職員全員が熟知していて、情報は事務所内に保管している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	分かりやすく説明し、話しやすい雰囲気を作り本人の思いをくめるようにしている。言葉での説明が難しい利用者は行動や表情を見落とさないようにして支援している。	利用者の力は変化していくので常に見落としの無いよう支援していきたい
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて居室で本を読む人・テレビを見る人・編み物をする人など希望にそって過ごしている。	利用者の希望とそれぞれの持っている力によりレクリエーションや家事に参加してもらうよう支援する
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝 洗顔時化粧水を付ける人・口紅を付ける人それぞれに合わせて支援している 美容院は本人の希望で美容室・床屋に行っている	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会では本人の好みの物を準備している 職員と一緒に食事作りをしたり、後片付けを日常的にしている	献立を立てたり、買物に行ったり、いっしょに作ったりして家庭らしい雰囲気を持ち続けたい
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつの時など利用者に選んでもらったりして日常的に支援している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄能力とパターンを把握し支援している 訴えの無い人は定時に声かけし誘導している</p>		<p>利用者の力に合わせて支援していく</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>特に希望が無ければ日中午後に入浴している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>申し送りや引継ぎで睡眠状況を把握しており、日中の散歩や運動で気持ちよく眠れるよう支援している。またお気に入りの布団、部屋の明るさなど長年の習慣を大事にしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>1人ひとりの生活歴や以前の趣味・楽しみを聞き、それぞれに合った畑仕事や手芸等に参加してもらっている</p>		<p>更に役割や楽しみ」を支援する</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望、能力に対応して金銭管理を行っており、買い物同行などでは支払いを見守り、支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候が良ければ散歩やドライブ、外出を心がけ、希望があれば買い物など希望に添えるようしている</p>		<p>1人ひとりのニーズに合わせたいと考えている</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>希望を聞きながら懐かしい場所への外出・花見・デパートで買物・レストランなど外へ出る機会を多くしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の人のみだが希望にそって支援している 年賀状は全員にすすめている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるようになっており、訪問しやすい雰囲気を作っている。居室にて対応したり、おやつを一緒にしたりする事もある。		続けて支援していく
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修会を行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		続けて支援していく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は基本的に日中鍵はかけていない 歩行不安定な人には居室にセンサーを入れている人もいる		続けて支援していく
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在や様子を把握し就寝時も2～3時間おきの安否確認をしている		続けて支援していく
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管場所を設け管理している。必要な場合は見守りの中で取り扱っている。		利用者の力に合わせて包丁や針の使用を支援している
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人ひとりの状態に応じて行動に気を配っている 薬は職員が保管し 服薬管理している 月1回の事故防止委員会を実施し 事例を検討し事故防止に努めている		続けて支援していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対応マニュアルを作成し、職員全体が内容を熟知しているが、訓練を定期的に行なう事が難しい		定期的に訓練を実施する
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害時に備えた避難訓練を実施しており、開所当初より地域の協力をお願いしている		夜間帯対応の避難訓練も考えていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランに基づき、説明と話し合いがなされている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックを実施し、体調の変化を見逃さないようにし、変調あった場合は医師との連携を図っている		続けて支援していく
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、職員が把握しており、管理している。また通院・往診ノートにて変化を確認している。		続けて支援していく
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理食材の工夫や水分摂取、散歩や体操などで予防に取り組んでいる。また医師と相談もしている。		続けて支援していく
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけ、誘導にて個々に対応した口腔ケアを行っており、歯医者から磨き指導を受けている人もいる		続けて支援していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日勤日誌に毎食 食事量・水分量を記入し栄養や水分が確保出来ているか確認している 1人ひとりの体重の増減も把握している 水分が少ない人には好みのものや形を変えて提供している また冷たいそうめんやうどんが嫌いな人には温かくしている		続けて支援していく
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防や対応のマニュアルがあり実行している 流行している時は目のつく所に取り決めを掲示し消毒等実施している		続けて実行する
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周りは使用後は掃除をし、調理用具等は漂白、日光消毒をしている。冷蔵庫の整理を心がけ、食材も新鮮で安全なものを使用している。		続けて実行する
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季折々の草花を植え、ベンチを置き、おしゃべりできるようになっており、玄関内には今月の行事などを案内している		続けて実行する
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や絵を飾っている 今年の夏は玄関に緑のカーテンを作り、きゅうりやゴーヤができて皆さん収穫を楽しみにしています 不快な音や光がないようその都度配慮している居心地よく過ごせるよう工夫しています		続けて工夫します
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを3箇所設置しているので自由に選ぶ事が出来るようになっている		続けて工夫します

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族で相談し、家具から箸まで使い慣れたものを持ってきてもらっています		続けて支援していく
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時の窓の開放、調理中の換気など全体の換気、空調は意識的に行なっている。室温は温度計を準備し、調節、各居室も同様、臭気の除去やエアコンでの温度調節も行なっている。		続けて実行する
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも設置されており、床の素材も工夫され、歩行器を使用する人もおり、安心して移動でき、自立した生活を送れるよう支援している		利用者の変化に合わせて柔軟に対応していきたい
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には表札があり、場所の表示も馴染みの言葉で提示している。手作りカレンダーには過ぎた日をマークし、わかりやすく、混乱や失敗を招かないよう工夫している。		利用者の変化に合わせて柔軟に対応していきたい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチを設け、散歩しなくても外気浴ができ 歌をうたったりお茶を飲んだりしている 花を植えたりする他に焼き芋・そうめん流し・バーベキュー - などを楽しんでいる		なるべく外に出れるように工夫したい

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がそれぞれの楽しみや役割を持ち、ハリのある生活が送れるように取り組んでいます。まず本人から今までの生活の様子を教えてもらったり、家族から情報を得たりして進めています。出来ること出来ないことを把握し、現在の力に合った家事、野菜の皮をむく・刻む・米を研ぐ・分けるなどの調理や洗濯・洗濯たたみ、掃除、畑仕事、趣味では読書、編み物、縫い物、絵、書道などに自由に参加してもらい、生き生きと生活され表情が良いと思います。また毎日の散歩や買物・外食・季節の花を見学に出掛け、身体機能の低下を防ぐとともにホームに閉じこもることのないように努めています。

地域との交流も大切にし更に深めたいと考えています。お祭りの時はお神輿が廻ってきて子供さんや地域の方と利用者が話す機会があったり、地区の文化祭や障害者センターのおまつりに作品展示をしています。リコーダ・オカリナ・マンドリン演奏会や外出のお手伝いなどたくさんのボランティアの協力をいただいています。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	こゆるぎの家
(ユニット名)	やまゆり
所在地 (県・市町村名)	中郡大磯町1194 - 1
記入者名 (管理者)	鈴木 良子
記入日	平成19年7月26日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中に地域の中で一人ひとりの暮らし方を尊重することもあげられており、独自の理念を作り上げている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすいところに掲示し、運営上の方針や目標などを職員へ話し、理解、協力を求め、実践に向けて取り組んでいる		更に日常的に伝えていく機会をつくっていきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営懇談会や家族会で説明し、理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時の挨拶や犬の散歩時に立ち寄ってくれたり、花や野菜などを届けてくれたりする。畑を借りているので、畑周辺の住民の方とも交流がある。		(取り組んでいる) 三味線やオカリナ、リコーダーなど近隣の方の趣味を披露する場所としても使われている。、日常のお付き合いが出来るよう取り組んでいる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節ごとの地域行事には可能な限り参加し、お祭りの休憩場所を提供したり、地区の文化祭に作品を出展し、地元の人々と交流する事に努めている		老人会や福祉推進委員会への参加、交流を可能な方法で進めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「こゆるぎの家」の存在が知られ、ご近所の中には独居の高齢の方が三味線演奏のボランティア活動に積極的である。又運営懇談会で話し合い、取り組んでいる		地域の人にグループホーム、認知症ケアについて、より理解される活動をしたい
-6				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自らを見つめなおす機会になっている。外部評価を実施する意義を理解し、これまでの評価を見直し、会議や日常的な話し合いで具体的な改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営懇談会では利用状況などを報告し、意見を聞き、サービス向上に活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	障害福祉連絡会に参加、行事などの情報交換、町福祉課、消防、社協、包括などの日常的に連携している		サービス事業者連絡会などで地域の連携を図る
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員研修、認知症研修などで学び利用者に紹介、活用されている		職員研修を続けて行なう
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議で説明、研修がなされており、防止に努めている		職員と個別面接をするなど、職員のメンタルヘルスに留意していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文書提示しながら口頭でも説明し、理解、納得をしてもらっている。更にキーマンに対してだけでなく必要に応じて複数の家族についても説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>できるだけ意向が表現できる雰囲気づくりに努めており、日々の生活の中で聞き取り、散歩や外出、買い物等にも反映させている</p>	<p>利用者の中には意見表明が困難な方もいるので意見を徴集する側の努力を強化したい。スタッフによる居室担当など、なじみの関係を強化して安心して意見が反映できるよう更に進める。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には必ず健康状態など最近の様子を報告をしている。毎月、個人預かり金明細書及びに一ヶ月の様子を記載、家族に送付しており、また年4回こゆるぎ通信を送付している</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年数回家族会を実施し、ご意見を聴いている。運営懇談会に利用者の家族が参加されていて、事業所の運営に反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議(年2～3回)時に発言できる。また職員の人事考課表に意見や提案を書く事が出来る。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出時や行事など、また体調不良など通常より人数が必要な時間に職員確保をしている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限にとどめられており、ダメージの無いように配慮している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加するよう求められており、スキルアップの研修を希望する場合も賛同が得られる		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会をつくる		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	問題が起きたときなど相談できる環境づくりに努めており、親睦会も行なわれている		職員の休憩場所を確保したい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務年数などに応じて資格取得や研修の参加を促している		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の関係する様々な問題を把握するよう傾聴し、安心して落ち着ける状況をつくれるよう努力している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談員が来所相談を受け、本人や家族の状況把握につとめる。その後提供責任者などが自宅や入院中の病院など訪問し、求められていることをよく聴き、ホームについても充分説明できる時間をつくる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を聴くようにし、他のサービス利用も含め、対応に努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染めるよう家族と密に連絡を取り、本人の生活リズムでできるだけ自然な形で過ごせるよう相談、工夫している。本人の状況に応じて、入所前に何回か来所の機会をつくるなど不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ある時は友人や家族のように喜怒哀楽を共にし、また人生の先輩として日常生活の中から知恵や経験を知り学ぶ事が多くある		農作業や季節の行事など常に教えていただき、学ばせていただく姿勢を心がけている
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援していく上で同じ目的をもって支えてくれる人として協力しあい、信頼関係を築いている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に認知症について更に理解を深めていただくよう、度々話し合いをしたり、ケア内容を知っていただくなかで安心していただくよう努めている		一部情報が不十分でわからない関係もあり、出来る範囲で書面にしてもらいたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に家族や本人の了解を得られた方の訪問は自由で、また手紙を出したりなど、関係が切れないように援助している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃から観察し、利用者同士の関係を把握し、食事の席やレクリエーションでの位置は適宜席替えをし、ほど良い関係をつくれるよう配慮している		時には他の利用者さんの居室に遊びに行ってお茶を飲んだり、泊まることもあったので、そういった関係を大切にしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了した家族からの訪問や連絡は大切にしており、また医療福祉関係の相談体制はある		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけその人らしく生活できるよう支援し、困難な場合でも本人の希望や意向に添えるよう努力している		希望を表出できない方もいるので普段の会話や行動、家族からの情報を得て、その人の意向を把握する
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の情報をもとにそれまでの生活歴などが個人ファイルにあり、家族からの情報も伝えることができる		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース会議や日常の申し送り、日勤日誌の記録などで現状を総合的に把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な関係者の意見を基にアセスメントを行ない、介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議や日常の申し送りで随時見直しをして対応し、必要な関係者とは連絡、相談をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を毎日記録しており、個人生活状況記録や通院・往診ノートを活用し、随時見直しをしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、病院の付き添いなど必要な時に、家族が急に対応できない場合にも工夫して対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによるミニ・コンサートへの参加や本人の希望で町のサークルなどに参加しており、支援している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣が居宅や在支の相談センターになっており、他のケアマネジャーからも、情報を得ている。福祉用具の利用など支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護について町社協と協働している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望でかかりつけ医を、選択決定している。かかりつけ医の受診時には日頃の様子を記録などにより伝えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談や適切な助言をしてくれる医師がいる		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の運営推進委員会に看護師がいて、なにかと相談できる。法人の地域内の他事業所の看護職に相談、支援受けられる。		日常の健康管理の相談の出来る看護職の常駐を希望している
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	日常の様子を病院関係者には報告し、管理者と病院側が情報を交換して連携を図っている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族の意向を最大限に取り入れその人らしく終末期を迎えられるよう何回か話し合いを重ね、相談を受け支援している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族は医師と話し合い、急変時の対応については職員と連携している。事前の対応について検討、準備を行なっている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在の状態、状況や望まれているケアなどの情報を提供し、ダメージを防ぐ事に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重した言葉かけなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを保ちながら対応している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が話しやすい環境をつくるよう心がけをし、基本的には希望が自己決定できるよう支援している	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが職員体制により対応できない事もある。職員のペースが優先されることの内容注意し合っている。	一日のスケジュールなど利用者さんと一緒に決めたりするなど職員が工夫を務める必要がある
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員と一緒に洋服選びをしたり、本人の希望をきいて理容室、美容院を利用している	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会では本人の好きな物を準備したり、職員と一緒に食事作りをし、味噌汁などの味付けや、食器洗い、拭きも一緒にしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に楽しめるよう手作りおやつ時には一緒に作ったりしている。お酒やたばこはお預かりして利用者の望む時に提供できるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して声かけに気をつけ、一人ひとりにあった支援を行なっている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようになっている。時間帯も希望にあわせ、湯温など希望に添うようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	申し送りや引継ぎで睡眠状況を把握しており、日中の散歩や運動で気持ちよく眠れるよう支援している。またお気に入り布団、部屋の明るさなど長年の習慣を大事にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今まで飼っていた猫の世話や、ホーム内の役割について個別的に考え、支援している		役割や楽しみ、気晴らしを更に得られるように支援する
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望、能力に対応して金銭管理を行っており、買い物同行などでは支払いを見守り、支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良ければ散歩やドライブ、外出を心がけ、希望があれば買い物など希望に添えるようしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食に出かけたり、お花見などの外出もしている。また家族と墓参りに行かれるなど本人の希望に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由に出来、必要があれば文章を考えるお手伝いをし、支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるようになっており、訪問しやすい雰囲気を作っている。居室にて対応したり、おやつを一緒にしたりする事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修会を行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		安全性を考え、戸口などにセンサーを設置する時がある
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は基本的に日中は鍵をかけていない。外出時対策には2階入り口にセンサーにて対応し、家族にも説明し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は見守りと職員間の声かけをし、利用者の所在や様子を把握しており夜間は2時間毎の安全確認を行なっている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は保管場所を設け管理している。必要な場合は見守りの中で取り扱っている。		裁縫をする方は針の本数を確認しチェックを行なっているが、今後の状態では工夫が必要と思われる
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を月に1回実施、それを回覧、ケース会議の時に口頭でも伝え、再発防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態の対応マニュアルを作成し、職員全体が内容を熟知しているが、訓練を定期的に行なう事が難しい		定期的を実施したい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害時に備えた避難訓練を実施しており、開所当初より地域の協力をお願いしている		夜間帯対応の避難訓練も考えていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン作成と同時に家族と話し合い、モニタリング等を行い、その都度説明をし、良い環境を作るよう努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックを実施し、体調の変化を見逃さないようにし、変調あった場合は医師との連携を図っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、職員が把握しており、管理している。また通院・往診ノートにて変化を確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理食材の工夫や水分摂取、散歩や体操などで予防に取り組んでいる。また医師と相談もしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけ、誘導にて個々に対応した口腔ケアを行っており、歯医者から磨き指導を受けている人もいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体重増減を把握しており食事量の調整、調理工夫をし、健康状態に合わせて支援している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する予防、対策のマニュアルを作成し、実行している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周りは使用後は掃除をし、調理用具等は漂白、日光消毒をしている。冷蔵庫の整理を心がけ、食材も新鮮で安全なものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季折々の草花を植え、ベンチを置き、お話や一休みできるようになっており、玄関内には今月の行事などを案内している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音また職員の会話のトーンなどその都度配慮している。壁飾りには季節感を取り入れたものを作り、花を置いたり、廊下には入居者の作品や写真を貼っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを3箇所設置しているので自由に選ぶ事が出来るようになっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は本人、家族で準備をし、仏壇を持ってこられたり、ベットと一緒に暮らしたり、なれた布団を使用したり、居心地良く過ごせる工夫に努めている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除時の窓の開放、調理中の換気など全体の換気、空調は意識的に行なっている。室温は温度計を準備し、調節、各居室も同様、臭気の除去やエアコンでの温度調節も行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも設置されており、床の素材も工夫され、歩行器を使用する人もおり、安心して移動でき、自立した生活を送れるよう支援している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には表札があり、場所の表示も馴染みの言葉で提示している。手作りカレンダーには過ぎた日をマークし、わかりやすく、混乱や失敗を招かないよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りにプランターを置き花を育て、みずやりが日課になったり、外周りの草取りを一緒に行なったり、ベランダで洗濯物を干したり、花を置いて楽しんでいる		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
		利用者の2/3くらいの
		利用者の1/3くらいの
		ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
		数日に1回程度ある
		たまにある
		ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と
		家族の2/3くらいと
		家族の1/3くらいと
		ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように
		数日に1回程度
		たまに
		ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がそれぞれの楽しみや役割を持ち、ハリのある生活が送れるように取り組んでいます。まず本人から今までの生活の様子を教えてもらったり、家族から情報を得たりして進めています。出来ること出来ないことを把握し、現在の力に合った家事、野菜の皮をむく・刻む・米を研ぐ・分けるなどの調理や洗濯・洗濯たたみ、掃除、畑仕事、趣味では読書、編み物、縫い物、絵、書道などに自由に参加してもらい、生き生きと生活され表情が良いと思います。また毎日の散歩や買物・外食・季節の花を見学に出掛け、身体機能の低下を防ぐとともにホームに閉じこもることのないように努めています。

地域との交流も大切にし更に深めたいと考えています。お祭りの時はお神輿が廻ってきて子供さんや地域の方と利用者が話す機会があったり、地区の文化祭や障害者センターのおまつりに作品展示をしています。リコーダ・オカリナ・マンドリン演奏会や外出のお手伝いなどたくさんのボランティアの協力をいただいています。